

博多 188

—博多遺跡群第242次調査報告—



2022

福岡市教育委員会

博多 188

—博多遺跡群第242次調査報告—



遺跡略号 HKT242

調査番号 2017

2022

福岡市教育委員会

序

古くから大陸との文化交流の門戸として発展を遂げてきた福岡市には、歴史的遺産が数多く残されており、それらを保護し、後世に伝えることはわたしたちの重要な責務であります。

しかしながら、近年の都市開発によって地下に埋もれた貴重な先人の足跡が失われていくことも事実です。そのため本市では、事前に埋蔵文化財の発掘調査を実施し、記録を残すことで、後の時代まで伝えるよう努めています。

本書は、博多遺跡群第242次調査について報告するものです。このたびの調査では、中世の井戸を中心とする生活痕跡が見つかり、当時の人びとの生活を復元する上で重要な成果を得ました。今後、本書が文化財保護に対する理解と認識を深める一助になるとともに、学術研究の資料としてご活用いただければ幸いに存じます。

最後になりましたが、株式会社ピーロット様をはじめとする関係者の方々には発掘調査から本書の刊行に至るまで、多大なご理解とご協力を賜りました。心から感謝申し上げます。

令和4年3月24日

福岡市教育委員会
教育長 星子 明夫

例　　言

1. 本書は、福岡市教育委員会が福岡市博多区冷泉町 414 番のホテル建設工事に先立ち、令和 2 (2020) 年度に実施した博多遺跡群第 242 次調査の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査および整理・報告書作成は民間受託事業として実施した。
3. 本書の執筆は、付編を比佐陽一郎が担当し、そのほかは神啓崇が担当した。編集は神が担当した。
4. 本書の遺構・遺物の実測、および製図は神が担当した。拓本は中間千衣子が担当した。
5. 本書の遺構・遺物写真は神が撮影した。
6. 本書の遺構実測図中の方位はすべて座標北である。
7. 本書掲載の座標は世界測地系で、標高は街区多角点 3 級 10E29 (H = 4.560m) を基準とした。
8. 検出遺構は、第 1 面検出遺構を 1001 から、第 2 面検出遺構を 2001 から検出順に通し番号を付けた。
9. 本書で使用した遺構略号は以下のとおりである。
SD 溝　SE 井戸　SK 土坑　SP 柱穴　SX 不明遺構
10. 本調査に関わる記録・遺物類は報告終了後、福岡市埋蔵文化財センターで収蔵・管理・公開する予定である。大いに活用していただきたい。
11. 本文中の陶磁器分類は以下の文献に拠る。
宮崎亮一編 2000『太宰府条坊跡 X - 陶磁器分類編 -』(太宰府市の文化財 第 49 集)

目　　次

| | |
|-----------------------------------|----|
| 第Ⅰ章　はじめに | 1 |
| 1. 調査にいたる経緯 | 1 |
| 2. 調査体制 | 1 |
| 第Ⅱ章　遺跡の立地と歴史的環境 | 2 |
| 1. 遺跡の立地 | 2 |
| 2. 周辺の調査 | 2 |
| 第Ⅲ章　発掘調査の記録 | 4 |
| 1. 調査の経過と概要 | 4 |
| 2. 層序と各遺構面の概要 | 4 |
| 3. 遺構と遺物 | 6 |
| 第Ⅳ章　総括 | 18 |
| 1. 調査成果 | 18 |
| 付　編　博多遺跡群第 242 次調査出土ガラス資料の保存科学的調査 | 20 |
| 写真図版 | 22 |

| | | | | | |
|--------|--|---------|-------------------|--------|------------|
| 遺跡名 | 博多遺跡群 | 調査次数 | 242 次 | 調査略号 | HKT-242 |
| 調査番号 | 2017 | 分布地図図幅名 | 49 天神 | 遺跡登録番号 | 0121 |
| 事業対象面積 | 525.64m ² | 調査面積 | 116m ² | 事前審査番号 | 2019-2-959 |
| 調査期間 | 令和 2 (2020) 年 7 月 1 日 - 令和 2 (2020) 年 8 月 31 日 | | | | |
| 調査地 | 福岡市博多区冷泉町 414 番 | | | | |

第Ⅰ章 はじめに

1. 調査にいたる経緯

福岡市教育委員会は、博多区冷泉町 414 番のホテル建設に伴う埋蔵文化財有無の照会（事前審査番号 2019-2-959）を令和元年 12 月 6 日付で受理した。申請地は周知の埋蔵文化財包蔵地である博多遺跡群内にあり、周辺で数次の発掘調査を実施しているため、申請地内でも遺構の存在が推測された。これを受け、埋蔵文化財課事前審査係が令和元年 12 月 24 日に確認調査を実施し、現地表面下 1.25m で中世の遺構と遺物を確認した。このため、遺構の保全等に関して申請者と協議したが、予定建築物の構造上、埋蔵文化財への影響が回避できないため、記録保存のための発掘調査を実施することで合意した。

その後、令和 2 年 6 月 1 日付で株式会社ビーロットを委託者、福岡市長を受託者として埋蔵文化財発掘調査業務委託契約を締結し、令和 2 年 7 月 1 日から 8 月 31 日まで発掘調査、令和 3 年度に資料整理および報告書作成を実施した。

申請地 525.64m² のうち、南東側は既存地下室で削平を受けているため、調査対象は埋蔵文化財が残る北西側の 115m² である。

調査にあたっては、株式会社ビーロット様および近隣の方々からご理解をいただくとともに、多大なご協力を賜りました。記して深謝いたします。

2. 調査体制

| | | | |
|-----------------|------------------|----------------------------|--|
| 調査主体 | 福岡市教育委員会 | | |
| 調査委託 | 株式会社ビーロット | | |
| 〈発掘調査 令和 2 年度〉 | | | |
| 調査総括 | 福岡市経済観光文化局文化財活用部 | 菅波 正人 | |
| | 埋蔵文化財課 課長 | 菅波 正人 | |
| | 埋蔵文化財課 調査第 1 係長 | 吉武 学 | |
| 調査庶務 | 文化財活用課 管理調整係長 | 大森 秋子 | |
| | 文化財活用課 管理調整係 | 松原 加奈枝 | |
| 事前審査 | 埋蔵文化財課 事前審査係長 | 本田 浩二郎 | |
| | 埋蔵文化財課 事前審査係 | 山本 晃平 | |
| 調査担当 | 埋蔵文化財課 調査第 1 係 | 神 啓崇 | |
| 〈整理・報告 令和 3 年度〉 | | | |
| 整理・報告総括 | 埋蔵文化財課 課長 | 菅波 正人 | |
| 整理・報告庶務 | 文化財活用課 管理調整係長 | 大森 秋子 (～5 月)・石川 あゆ子 (6 月～) | |
| | 文化財活用課 管理調整係 | 井手 瑞江 (～7 月)・内藤 愛 (8 月～) | |
| 事前審査 | 埋蔵文化財課 事前審査係長 | 田上 勇一郎 | |
| | 埋蔵文化財課 事前審査係 | 山本 晃平 | |
| 整理・報告担当 | 埋蔵文化財課 事前審査係 | 神 啓崇 | |

第II章 遺跡の立地と歴史的環境

1. 遺跡の立地

博多遺跡群は、玄界灘に面する博多湾岸に形成された砂丘上にあり、西に博多川（那珂川）、東は江戸時代開墾の石堂川（御笠川）、南は石堂川の開墾以前に那珂川に向かって西流していた旧比恵川（御笠川）によって画される。基盤層の砂丘は、現地表の起伏から推定すると微高地が3列確認でき、内陸側から砂丘I・砂丘II（博多浜）、砂丘III（息浜）と呼ぶ。地山は褐色砂層で、「箱崎砂層」とも呼ばれる（下山1989）。砂は石英質ないし真砂質で、海浜砂層を主体とする。砂層の分布は博多湾南岸に沿って、東区箱崎から馬出、博多区呉服町・中洲、中央区天神・荒戸・地行、早良区西新をへて室見川河口に至る（下山1998）。第242次調査地点は砂丘IIの中央西寄りに位置する。

2. 周辺の調査

遺跡の概要は参考文献（大庭ほか編 2008・大庭 2009など）を参照いただき、以下に242次調査地点周辺の既往調査成果をまとめる。

162次調査（市報947集） 1面の調査で（砂丘面標高3.7m）、12世紀を主体とする溝、井戸、土坑、柱穴を検出した。また、弥生時代終末期の壇場墓や古代（特に8～10世紀）の可能性がある溝が出ていている。

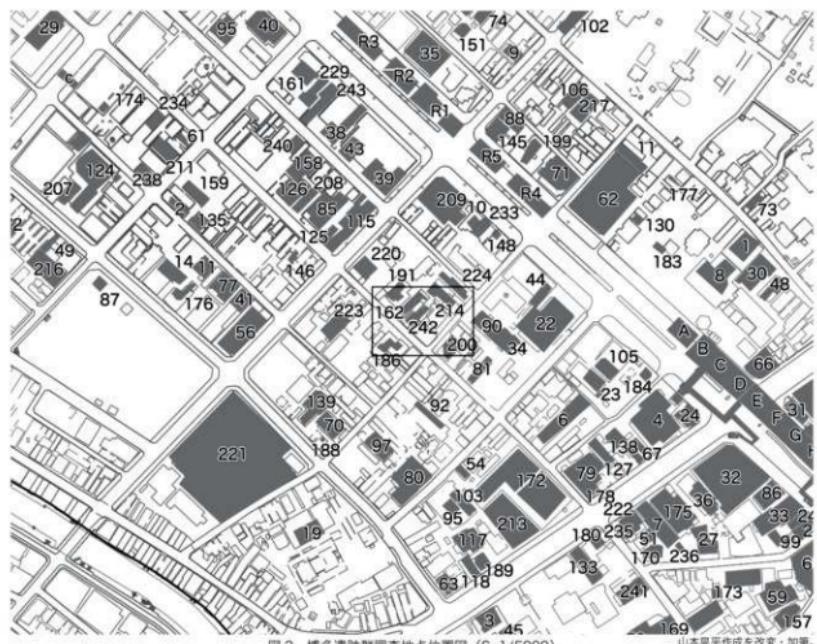
186次調査（市報1090集） 4面の調査で、1面目（標高3.8～3.6m・暗黄灰褐色粘質土の整地土層）中世後半、2面目（標高3.5～3.2m・暗褐色粘質土～砂質土層）中世前半、3面目（標高3.0～2.5m・暗褐色砂質土層）古墳時代から古代、4面目（標高2.5～2.0m・褐色砂層）弥生時代以降の遺構・遺物が出ていている。弥生時代中期末の土坑、土器、古代の溝を検出した。井戸からは帶金具が出土した。

200次調査（市報1290集） 4面の調査で、1面目は近世から中世後半を中心とし、瓦井戸や土坑が出た。2面～3面目は中世で、井戸や地下倉庫、動物骨を捨てた土坑を検出した。4面目（砂丘面）は古墳時代から弥生時代で、弥生時代後期の竪穴建物2棟が出ていている。

214次調査（市報1370集） 2面の調査で、古代から中世の井戸や土坑を検出した。



図1 博多遺跡群の範囲と第242次調査地点 (S=1/25000)



第三章 発掘調査の記録

1. 調査の経過と概要

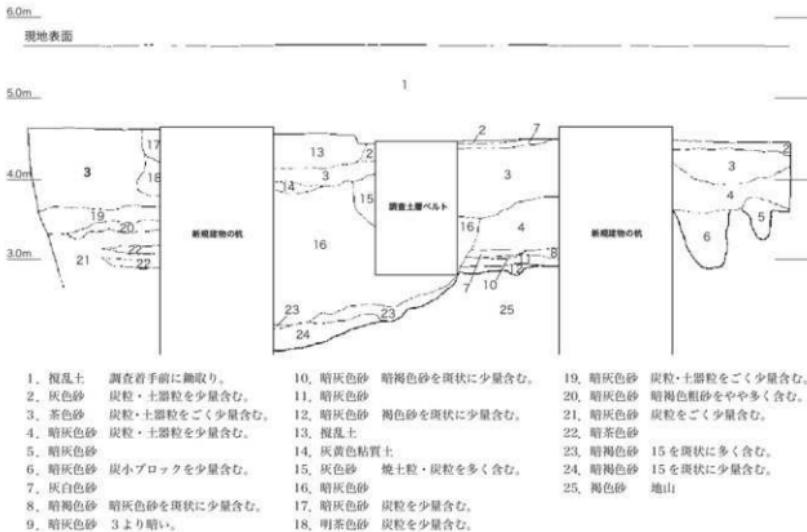
調査着手前の現況は更地で、道路との比高差はない。現地表面の標高は5.5m程度である。施工者が、調査着手前に新規建物の杭打ち工事、現地表面下1.2mの表土鋤取りと場外搬出をおこなった。

発掘調査は令和2年7月1日から着手し、第1面の遺構検出を始めた。7月17日に第1面の掘削を終了し、その後は調査区北東側をI区、南西側をII区に分割し、I区、II区の順に反転した。8月7日にI区第2面の掘削が終わり、8月8日に重機で反転した。8月11日からII区に着手し、8月29日に人力による掘下げを終了した。8月31日に重機で埋戻し、機材を撤収した。

調査では、古墳時代前期の土坑、不明遺構、中世から近代に至る井戸、溝、土坑、柱穴などを検出した。遺構の主体は井戸で、中世の井戸を6基、近世以降の井戸を3基、計9基確認した。遺物は、弥生土器、土師器、須恵器、国産陶器、貿易陶磁器、金属製品、石製品がパンケース35箱分出土した。

2. 層序と各遺構面の概要

試掘成果をふまえ、表土鋤取り後の標高4.5m前後の灰色砂層（2層）上面を第1面に設定し掘削を開始した。遺構はいずれも近世以降である。中世の遺物はわずかに出るが、遺構に伴うものではない。その後、I区では、標高3.6m前後の暗褐色砂層を第2面として掘削し、古代末から中世の井戸、溝、土坑、柱穴、古墳時代前期の不明遺構を検出した。井戸の切り合いが主体で、所々で地山の褐色砂が出ていたことから、この面を最終面とした。II区では、標高4.0m前後の暗灰色砂層（4層）上面を第2面上層とし、土坑・柱穴を検出した。その後、標高3.1～3.6m前後の褐色砂層上面を第2面として掘削した。中世の井戸、溝、土坑柱穴、古墳時代前期の土坑を検出した。



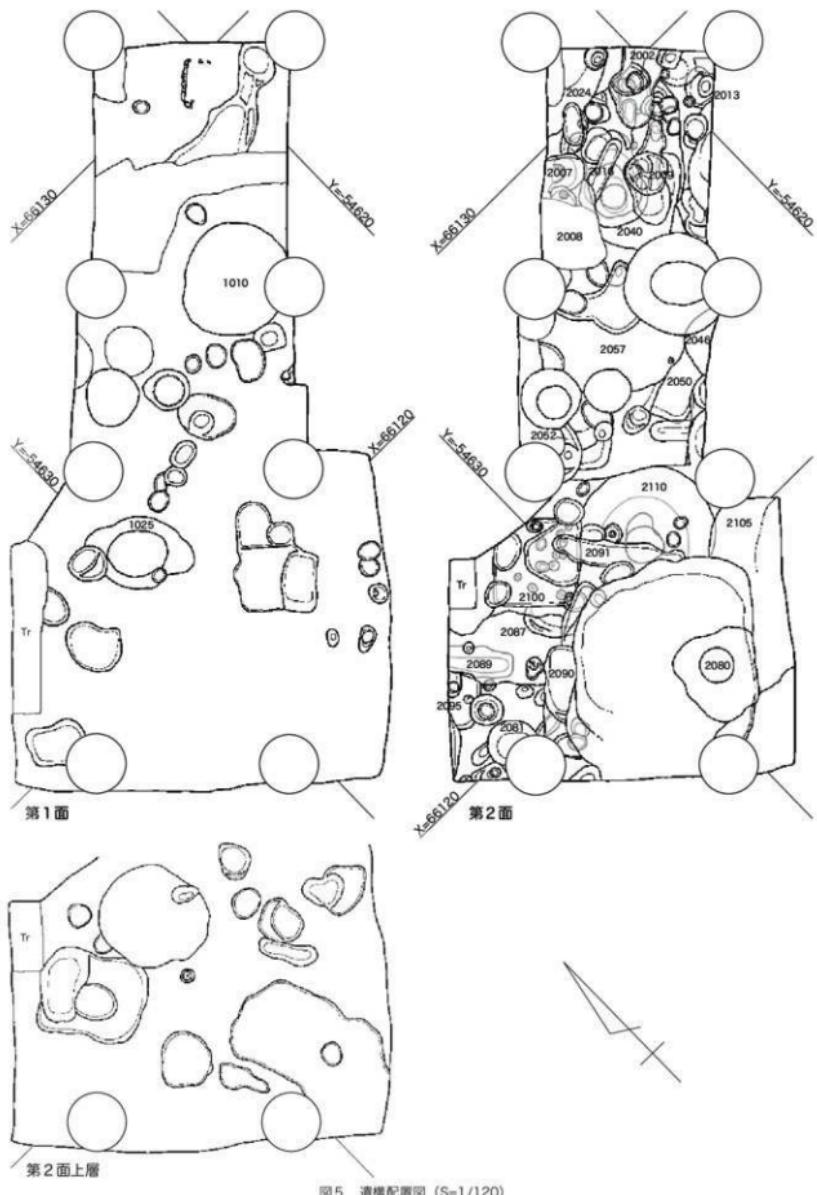


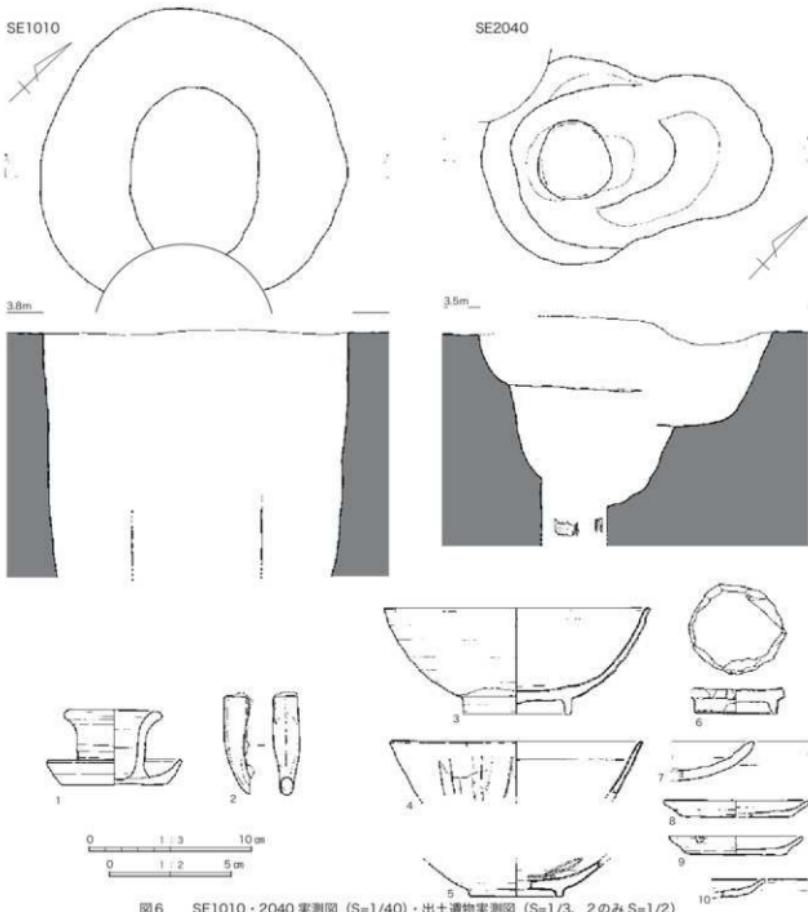
図5 遺構配置図 (S=1/120)

3. 遺構と遺物

(1) 井戸

SE1010 (図6・Ph. 7) 第1面1区中央付近で検出し、掘方径2.7mを測る。井戸枠は長楕円形で、短軸長は1.05mである。第1面遺構検出時から掘方のプランは確認できていたが、井戸枠は不明瞭であった。標高2.2m程度まで掘り下げたところ、井戸枠のプランを確認し、標高1.7mで湧水した。埋土は炭粒が混じる灰色粘土主体で、部分的に茶色砂が入る。

1は土師器灯明皿である。底部糸切で、回転ナデを施す。煤の付着はみられない。2は青銅製のキセルの吸い口部分である。このほか、土師器皿・火鉢、土鈴、焼した平瓦・丸瓦、染付碗などが出ている。遺構の時期は近世以降である。



SE2040 (図6・Ph.8) 第2面I区北東付近で検出し、掘方長軸長2.4m、短軸長1.6mを測る。埋土は、暗褐色砂に灰色粘砂が斑状に混じる。標高1.8mで井戸枠材の木を検出した。遺存状態は良くない。標高1.65m付近で湧水する。

3・4は白磁碗で、3はV-Ia類である。5は青磁碗で、見込みに砂目跡がある。深緑色を呈する。胎土は緻密で青灰色～淡小豆色である。6は白磁碗の瓦玉である。7～10は土師器壺・皿で、いずれも底部へラ切である。このほかに遺物は薄パンケース1/3箱分出ている。遺構の時期は、出土遺物から11世紀後半と考える。

SE2046 (図7) 第2面I区南東側で検出した。SE1010に切られる。井戸枠は調査区外にある。

11は滑石製石鍋で、外面に煤が付着する。12は土師器壺で、底部糸切、回転ナデ成形である。13は白磁皿IX-1b類で、釉色は淡水色である。14は白磁皿VI-1a類で、胎土は灰色で精良緻密、釉色は黄灰色である。

SE2057 (図8、9・Ph.9) 第2面I区中央で検出し、掘方径3.7mを測る。周囲の遺構に切られるため、残りは良くない。井戸枠は捉えられなかった。埋土は暗茶色砂が主体で、暗灰色砂を部分的に含む。標高1.6mで湧水した。

15は越州窯系青磁碗である。蛇目高台で、底部に目跡がある。暗オリーブ色を呈する。底部1/3から復元作図した。16は黒色土器B類である。胎土は精良で、内面は黒色、外面は明橙色を呈す

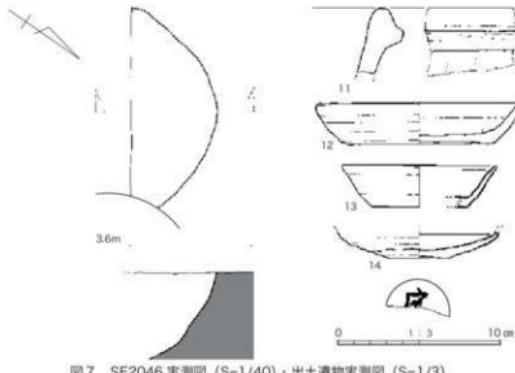


図7 SE2046 実測図 (S=1/40)・出土遺物実測図 (S=1/3)

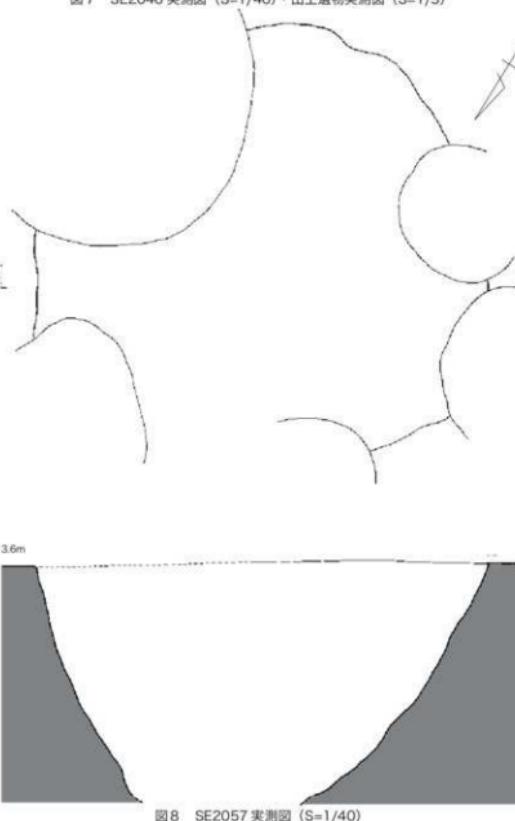


図8 SE2057 実測図 (S=1/40)

る。17は土師器椀で、胴下部外面はヘラケズリ、胴部内外面に丁寧なヘラミガキを施す。18～21は須恵器で、18・19は蓋、20・21は椀である。19・20・21は1/4から復元作図した。22・23は土師器甕である。22は胴部外面上部は横ハケ、中央部は縦ハケ、胴部内面は縦ハケ後にミガキを施す。内面に赤色顔料が付着する。23は内面は横ハケ、外面は突帯部分に短いストロークで強めの斜めハケ、器面に斜めハケを施す。24は平瓦で、焼成はやや不良、暗橙色である。25は端部の一部に煤が付着する。叩打用の石製工具か。

SE2080 (図10・Ph.10) 第2面II区南東半で検出し、掘方径4.4m、井戸枠径0.8mを測る。標高3m程度で掘方・井戸枠のプランを捉えたが、SE2105との切り合い付近はプランが不明瞭だった。標高1.45m付近で湧水した。井戸枠材は消失している。掘方埋土は暗茶灰色砂、井戸枠埋土は暗灰色粘砂を多く含む暗灰茶色砂である。

26・27は井戸枠、28～31は掘方出土遺物である。26は花崗岩製の二石五輪塔で、地輪を欠く。梵字はない。器面には細かい叩打痕が残る。27は瓦質土器すり鉢である。暗灰色で焼成は良く、底部内面は使用により磨滅している。28・29は土師器甕である。28は底部ヘラ切で、胴部に回転ナデ、見込みに軽い静止ナデを施す。焼成は良く、淡白色である。29は底部糸切で、回転ナデを施す。30は白磁碗で、1/2から復元作図した。31は白磁皿IV-1b類、32は青磁碗の瓦玉である。このほかに遺物は中パンケース1箱分出土した。

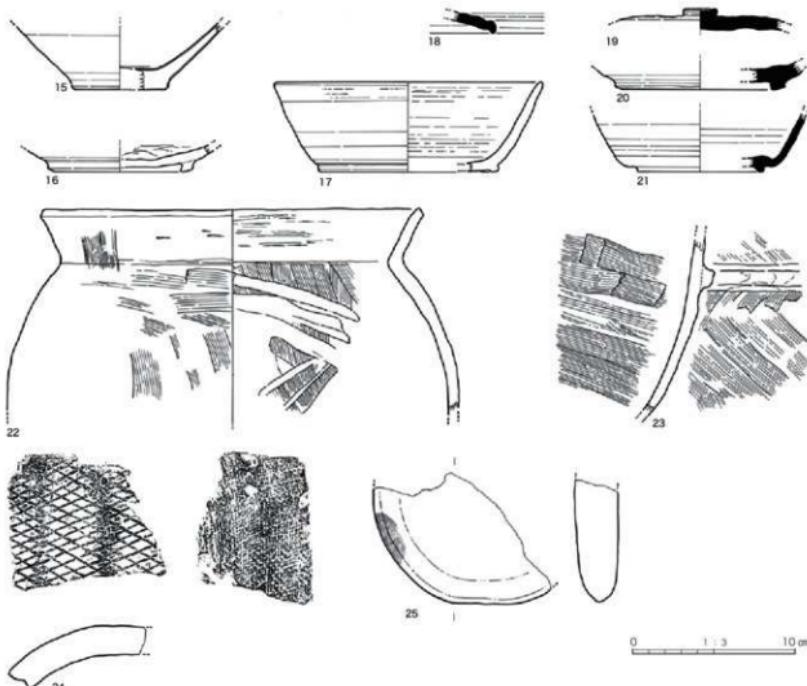


図9 SE2057出土遺物実測図 (S=1/3)

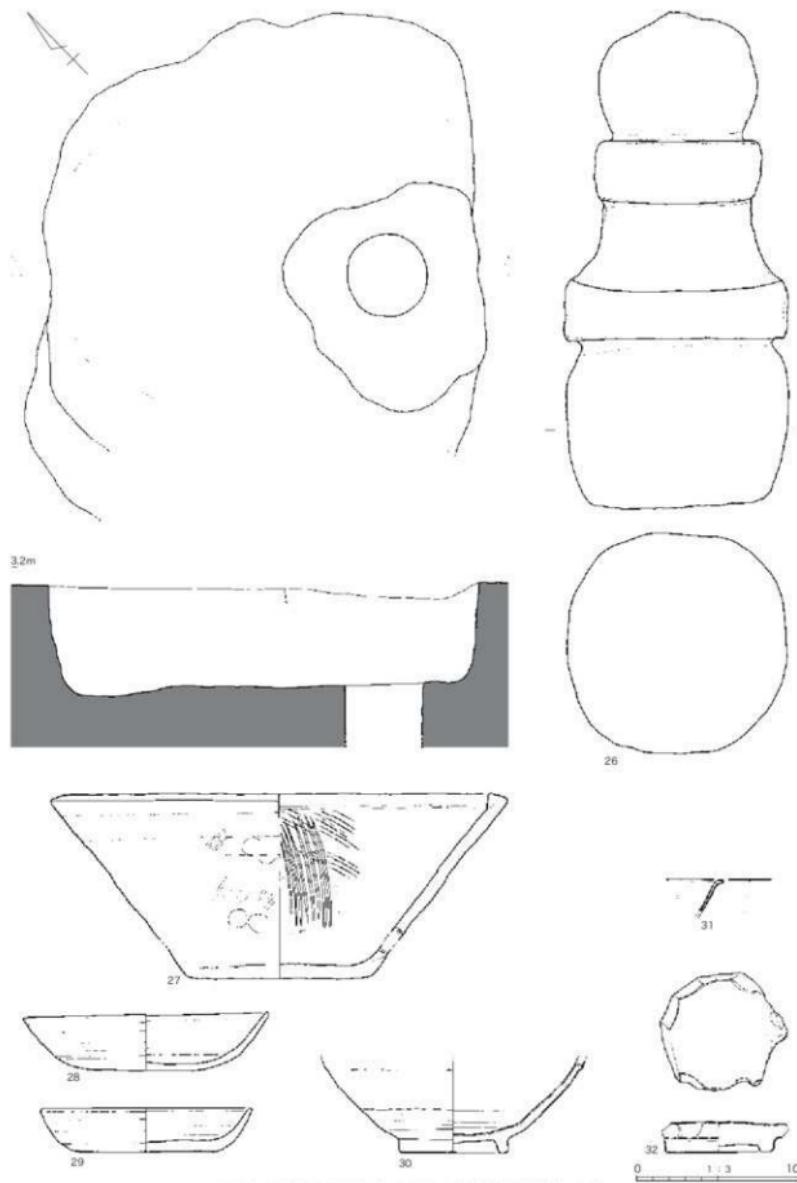


図10 SE2080実測図 (S=1/50)・出土遺物実測図 (S=1/3)

SE2105 (図11) 第2面、II区東端で検出した。SE2080に切られる。

33～36は土師器皿・环である。いずれも底部糸切で、回転ナデで成形する。33・34・36は見込みに静止ナデを施す。また、35・36は底部に板状痕が残る。37は初期龍泉窯系青磁碗である。胎土は灰色、緻密で径1～2mmの白色砂粒をごく少量含む。全面に施釉し、深緑色を呈する。高台内面に目跡が残る。38は龍泉窯系青磁碗II-b類である。胎土は灰白色、緻密で微細な黒斑が少量混じる。釉は淡青色である。39は高麗青磁碗である。胎土は緻密で内外面に施釉し、淡茶色を呈する。見込みに目跡がある。40は白磁壺である。灰白色を呈し、外面底部付近に砂粒が付着する。41は黄釉鉄絵盤である。底部に2次的な焼成を受ける。42は瓦器椀である。胎土に径1～2mmの白色砂粒を少量含む。焼成は良く、暗灰色～灰色を呈する。内外面にミガキを施す。43・45は瓦玉である。45は外面に釉がかかる。46は土師器の把手である。胎土に径1mmの白色砂を少量含む。このほか、薄パンケース1箱分の遺物が出た。

SE2110 (図12・Ph.11) 第2面、II区北東付近で検出した。掘方径3.3m、井戸枠径0.85mを測る。SE2080、SE2105に切られる。標高1.45mで湧水した。井戸枠材は消失している。井戸枠埋土は暗茶色砂、掘方埋土は暗茶色砂主体で、暗褐色砂を少量含む。

51・52・55は井戸枠、46～50は掘方の出土遺物である。46は黄釉鉄絵盤の底部片である。47～49は白磁碗で、48・49は1/2からの復元作図である。50は黄釉陶器壺の底部である。胎土に径1mmの黒色砂粒を少量含む。焼成は良く、焼き締まる。釉は黄オリーブ色で、胎土は黄灰色を呈する。釉は胴

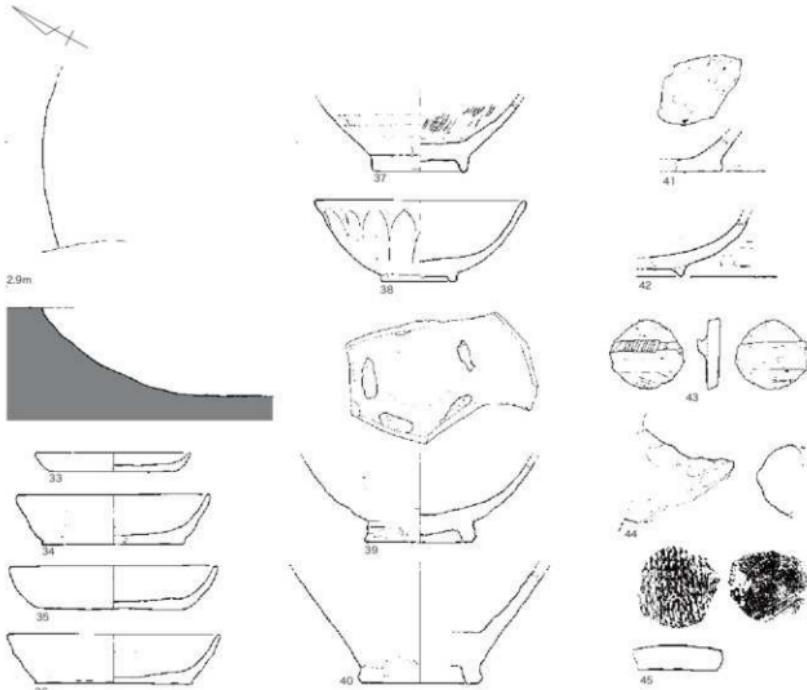


図11 SE2105実測図 (S=1/40)・出土遺物実測図 (S=1/3)

部外面のほか、内面の底部付近にもかかる。
 1/4から復元作図した。51は越州窯系青磁碗のIII・1b類である。オリーブ色で、全面に施釉する。胎土は緻密で黄灰色を呈する。高台内面に目跡がある。内面は汚れがついている。土中の成分か。52は同安窯系青磁碗である。胎土は淡黄灰色で焼成は良い。釉は透明ガラス質である。53・54は白磁碗である。53は内面全体、胴部外面に施釉する。釉は明灰白色を呈する。胎土は白灰色で、微細な黒斑が少量混じる。1/2から復元作図した。54は胎土が緻密で、淡黄灰色を呈する。口縁部1/8程度からの復元作図である。55は陶器甕の底部である。胎土は淡灰紫色で、径1mm程度の白色砂粒、黒斑を少量含む。1/4から復元作図した。このほかに薄パンケース1/3箱分の遺物が出た。掘方出土遺物から、井戸の利用開始時期は、11世紀後半から12世紀前半と考える。

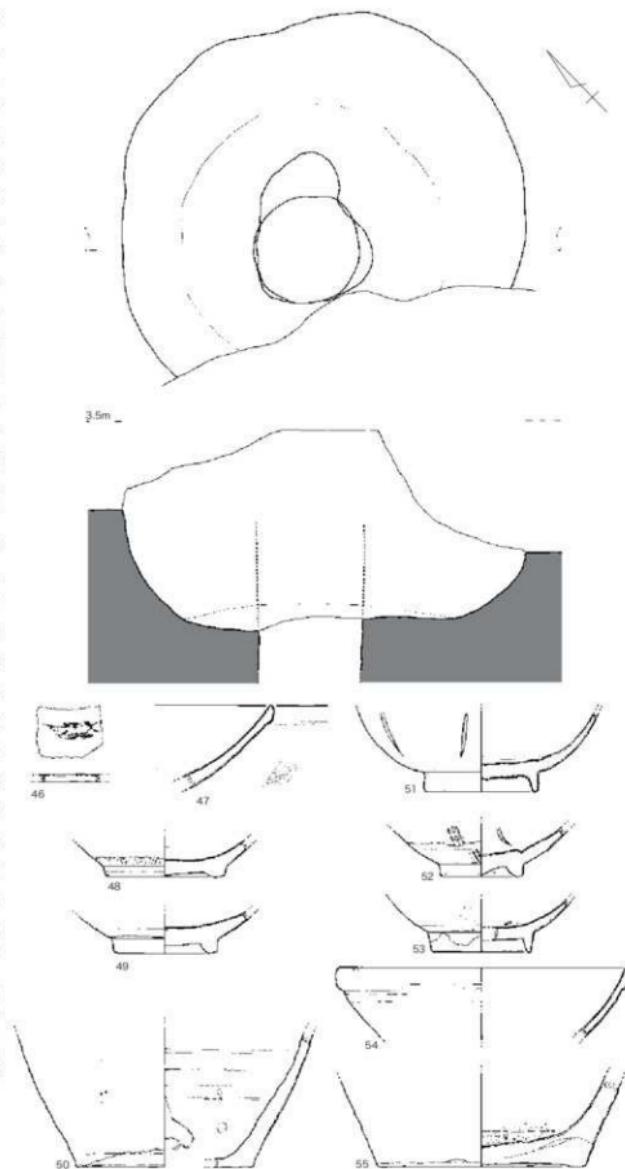


図12 SE2110実測図 (S=1/40)・出土遺物実測図 (S=1/3)

(2) 溝

SD2016 (図13) 第2面I区中央で検出し、幅0.4m、残存長1.6m、検出面からの深さ0.15mを測る。埋土は暗灰褐色砂である。

56は白磁碗で、胴部から口縁まで直線的に立ち上がる。胎土は白灰色で微細な黒斑をごく少量含む。釉色は灰色で、外面は釉が厚くかかる。57～62は土師器皿・坏である。57・58は底部ヘラ切で、板状痕跡が残る。回転ナデで成形し、見込みに軽い静止ナデを施す。57は1/4からの復元作図である。59・60は底部外面に指オサエ、胴部に回転ナデを施す。内面は工具ミガキで、60は内面と口縁端部外面に煤が付く。61・62は回転ナデ成形で底部はヘラ切である。内面は工具ミガキで、61は見込みに不定ナデを施す。遺構の時期は、出土遺物から11世紀後半と考える。

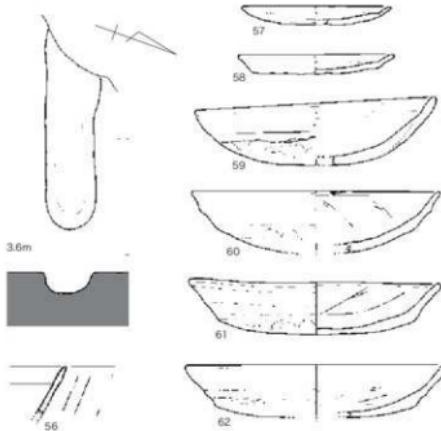


図13 SD2016実測図(S=1/40)・出土遺物実測図(S=1/3)

SD2089 (図14) 第2面II区北西で検出し、幅0.7m、残存長1.6m、検出面からの深さ0.6mを測る。埋土は黒色砂が主体で、最下層に暗褐色砂が堆積する。

63・64は土師器坏である。63は回転ナデ、底部はユビオサエで成形する。内面は工具ミガキを施す。64は底部ヘラ切で、回転ナデ成形、底部中央を意図的に打ち欠く。65は青磁小碗で、胎土は淡灰黄色で緻密である。釉は暗オリーブ色で全面に施し、高台内面に目跡がある。66は灰釉陶器碗で、胎土は灰色、黒斑をごく少量含む。釉は薄く、灰白色を呈する。67は白磁碗XI-4類で、胎土は橙～灰色で、釉は青みのある白色である。68は土師器甕である。外面は縦ハケ、内面は縦・斜めハケを施す。外面は磨滅する。暗橙色で、胎土に径1～5mmの白色砂を少量含む。

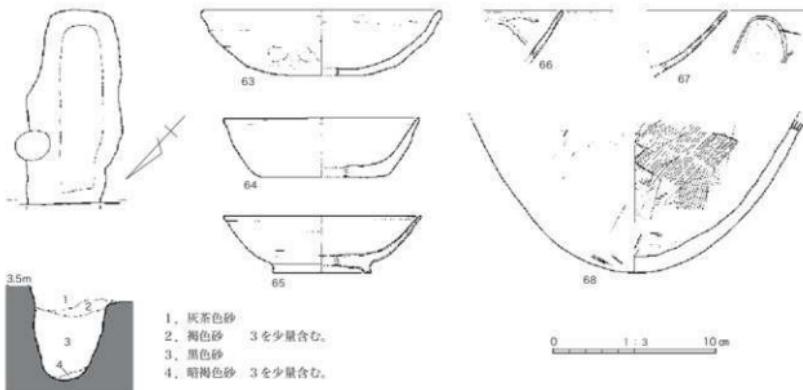


図14 SD2089実測図(S=1/40)・出土遺物実測図(S=1/3)

SD2091 (図 15) 第2面II区中央で検出し、幅0.6m、長さ3.2m、検出面からの深さ0.2mを測る。埋土は暗茶色砂である。

69～71は白磁である。69は黄灰色で、1/3から復元作図した。70は碗VII類で、胎土は灰色、釉色は灰白色である。71は皿で、胎土は灰～黄灰色で緻密、釉は透明ガラス質である。72・73は土師器環で、底部糸切、73は底部に板状痕が残る。74は平瓦である。焼成はやや不良で、胎土に径1～3mmの白色砂を少量含む。75は瓦質土器の風炉か火鉢である。内面は横ハケ、外面は横ナデ、口縁付近はミガキを施す。

(3) 土坑

SK2009 (図 16) 第2面I区中央で検出し、径1.05m、検出面から最深底までの深さ0.45mを測る。

76は黒褐釉陶器碗である。胎土は暗紫色で、径1～3mmの白色砂を少量含む。釉は暗深緑色である。77は黄釉鉄絵盤I-lb類である。外面に土中の鉄分が沈着する。78は土師器環で、底部ヘラ切、内面にミガキを施す。79・80は染付碗である。

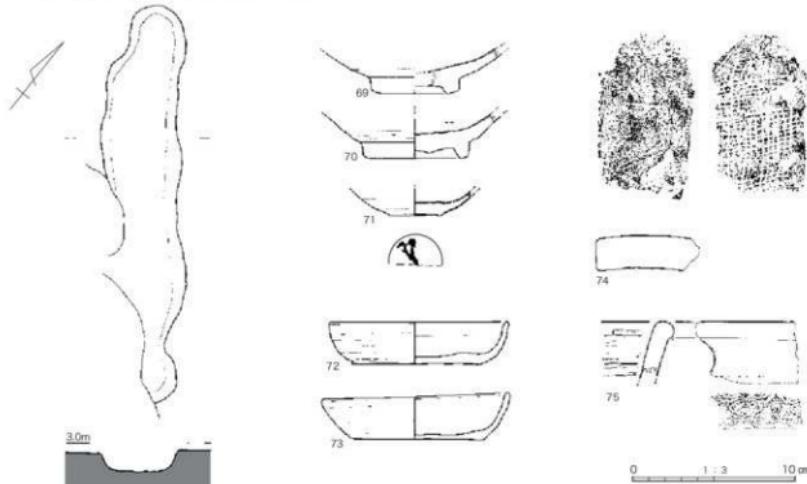


図 15 SD2091 実測図 (S=1/40)・出土遺物実測図 (S=1/3)

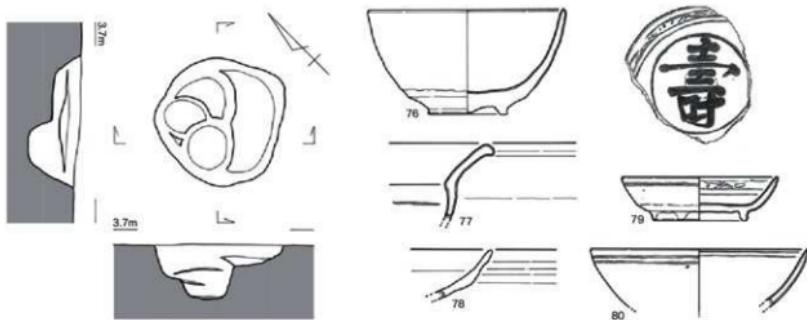


図 16 SK2009 実測図 (S=1/40)・出土遺物実測図 (S=1/3)

SK2081 (図 17) 第2面II区西側で検出し、幅1.1m、検出面からの深さ0.7mを測る。埋土は黒色砂である。

81は褐釉陶器水注である。胎土は白色で緻密、釉は茶褐色を呈する。82は白磁碗で、胎土は白色で微細な黒斑を少量含む。釉は黄灰色である。83は無釉陶器水注X類である。胎土は暗紫色で、径1~3mmの白色砂をやや多く含む。注口部を欠く。ガラスの付着はない。84は白磁碗の瓦玉である。85は白磁碗でV-4c類である。胎土は灰色で微細な黒斑を少量含む。釉は淡黄灰色である。86は土師器壊である。回転ナデ後、内面に丁寧なミガキを施す。遺構の時期は、出土遺物から11世紀後半から12世紀前半と考える。

SK2087 (図18) 第2面II区中央で検出し、残存幅0.8m、残存長1.3m、検出面からの深さ0.6mを測る。埋土は茶色砂主体で、部分的に黒色シルト質土を少量含む。

87~93は白磁碗である。87は、胎土は灰黄色で、釉色はやや青みのある白色である。88は瓦玉である。89はII-1類で、胎土は灰白色で緻密、釉はやや青みのある白色を呈する。91はV-2b類で、口縁内面付近に釉が厚くかかる。92は、胎土は黄灰色で、径1mmの白色砂をごく少量含む。釉はガラス質で、口縁外面に厚くかかる。94は越州窯系青磁碗で、胎土は灰色で緻密、釉は淡緑オリーブ色で全面にかかる。高台内面に目跡がある。95は土師器壊である。回転ナデ成形で、内面は不定ナデを施す。胎土に径1mmの白色砂をごく少量含む。焼成はやや不良である。底部外面付近に煤が着く。96は土師器皿で、底部糸ヘラ切、1/4から復元した。97は黄釉鉄絵盤である。98・99は土師器壊の肩部である。98は、外表面は縦ハケ後、赤色顔料を塗り、ミガキを施す。内面は縦ハケ・斜めハケで、接合部分は指オサエが残る。胎土に径1~3mm程度の白色砂を少量含む。焼成は良く、赤みのある橙色を呈する。99は調整や焼成は98と概ね同じため、同一個体の可能性がある。遺構の時期は、出土遺物から11世紀後半から12世紀前半と考える。

SK2090 (図19) 第2面II区中央西寄りで検出し、残存幅0.8m、残存長1.9m、検出面からの深さ0.55mを測る。SE2080に切られる。

100は無釉陶器鉢である。101は白磁碗である。102は白磁猪口である。胎土は白色で緻密、釉は淡黄灰色である。露胎部分は橙色を呈する。103は滑石製石鍋で、内外面に煤が付く。



図17 SK2081実測図(S=1/40)・出土遺物実測図(S=1/3)

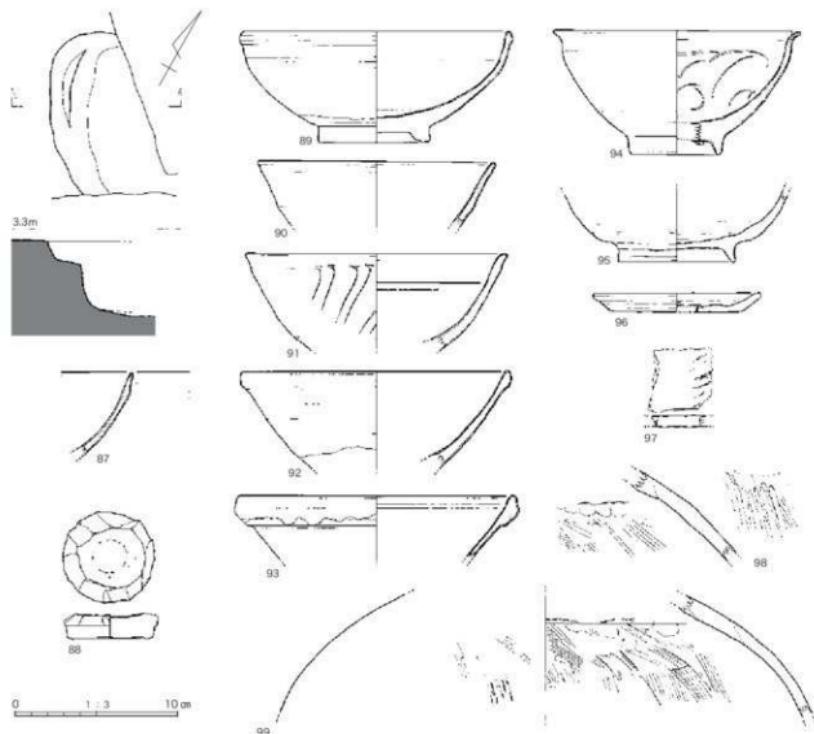


図18 SK2087 実測図 (S=1/40)・出土遺物実測図 (S=1/3)

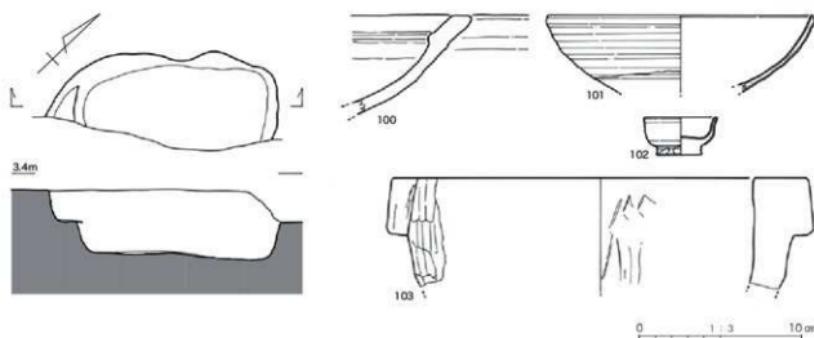


図19 SK2090 実測図 (S=1/40)・出土遺物実測図 (S=1/3)

SK2100 (図20・Ph.12) 第2面II区北側で検出し、一辺 2.2m、検出面からの深さ 0.3m を測る。

(4) 不明遺構

SX2050(図21・Ph.13) 第2面I区南側で検出した。SE2057の掘削時に小形丸底壺(104)が見えたため、認識できた。暗褐色砂を埋土と捉えてその範囲を掘り下げる。明確にプランを確認できたわけではない。

104は土師器丸底壺である。底部を欠くが、ほぼ完形品である。口縁部外面は横ナデ、胴部は指オサエ、横・不定ナデ後にミガキを施す。内面は、口縁部はナデ、胴部上面は指オサエ、胴部は工具ナデ、底部附近はナデを施す。胎土に径1～3mmの白色砂を少量含む。焼成は良く、淡橙色を呈する。

SX2095 (図22・Ph.14) 第2面II区北西端で検出した。埋土は暗褐色砂である。

104は土師器壺である。外面は磨いているが風化で不明瞭、所々で器壁が剥がれています。内面は、胴部

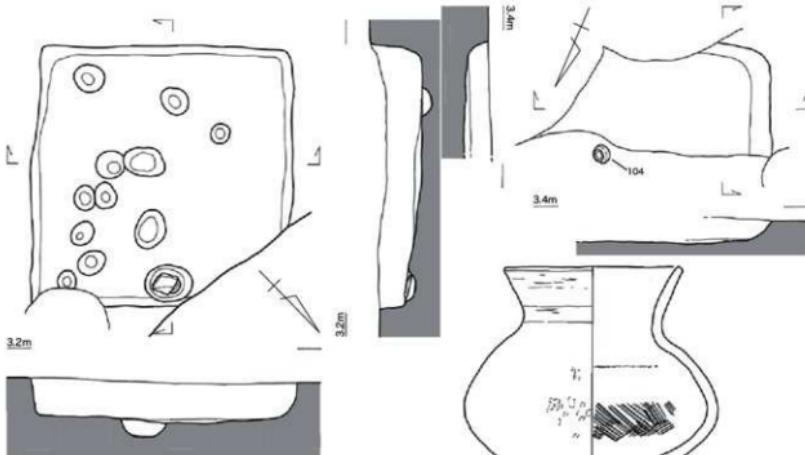


図20 SK2100実測図 (S=1/40)

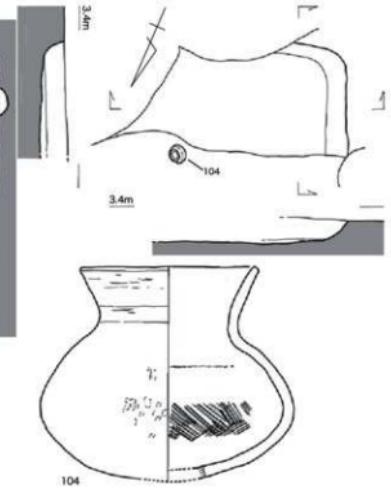


図21 SX2050実測図 (S=1/40)・出土遺物実測図 (S=1/3)

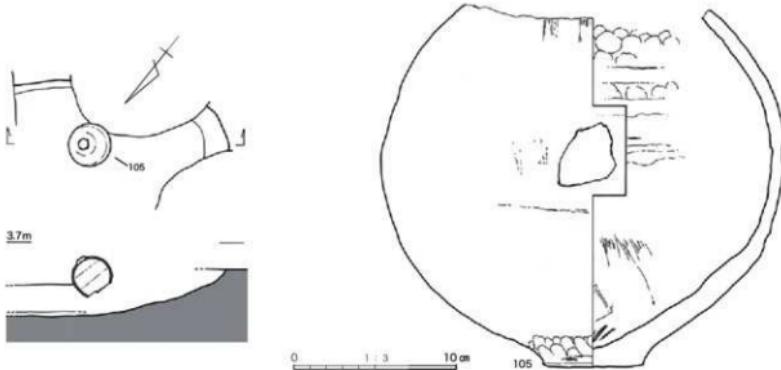


図22 SX2095実測図 (S=1/30)・出土遺物実測図 (S=1/3)

下半から底部は工具ナデ、胸部上半は指オサエ・ナデを施す。内面調整は粗い印象を受ける。胎土は径1～3 mmの白色砂を少量含む。焼成は良く、暗橙色を呈する。

(5) その他の出土遺物(図23)

106～112は白磁碗・皿である。113は高麗陶器碗である。見込みと高台に目跡がある。114～119は墨書き陶器で、114・115は青磁碗、116は白磁皿II -la類、117・118は白磁碗、119は白磁皿である。120は高麗陶器盤口壺である。121はイスラム陶器で、胎土は淡黄色、釉は鮮やかな青緑色を呈する。122は黒色の萩石である。123は弥生土器器台である。外面はやや磨滅している。124～129は須恵器で、124・125は楕、126・129は蓋、127・128は坏身である。

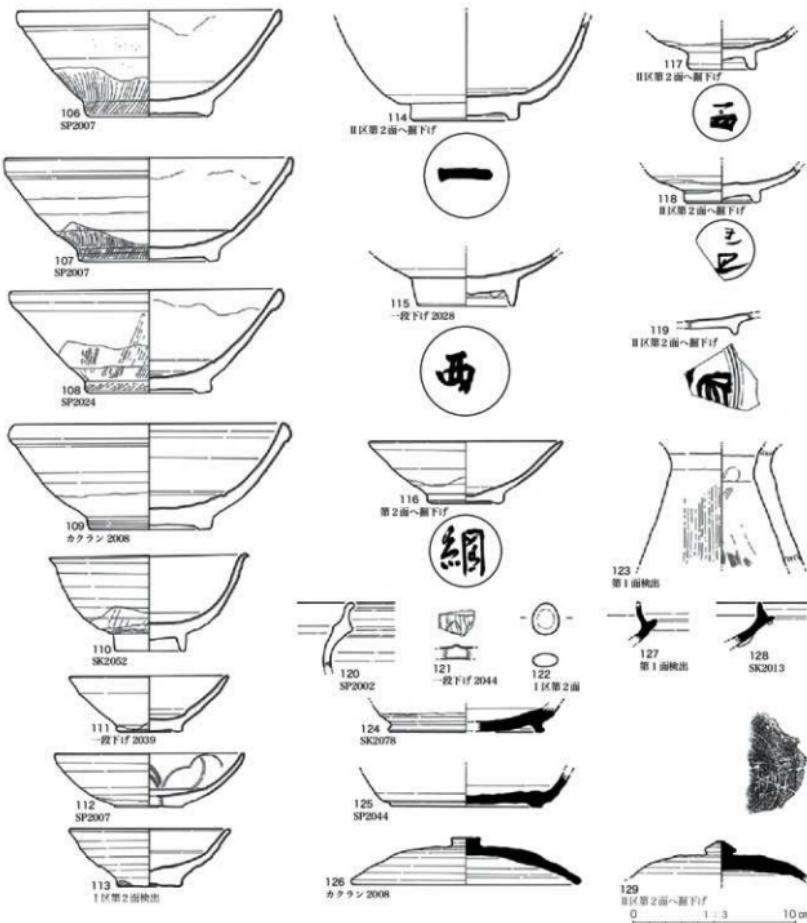


図23 その他の出土遺物実測図 (S=1/3)

第V章 総括

1. 調査成果

本調査の成果を以下にまとめ、結びとする。

- ① 2面の調査を実施し、第1面で近世以降、第2面で古墳時代前期から中世の遺構を検出した。第2面の砂丘面は標高3.1～3.6mである。
- ② 古墳時代前期の遺構（SX2050・SX2095）を検出した。SX2050はプランが不明瞭だが、堅穴建物の可能性がある。
- ③ 中世の遺構は、井戸、溝、土坑、柱穴等を検出した。このうち、SE2040・SE2110・SD2016・SK2081・SK2087など、11世紀後半から12世紀前半の遺構が主体である。遺構に伴わない遺物も、当該期のものが多い印象を受ける。本調査区の北西150mでは、当該期の港湾施設と考えられる石積み遺構を検出している。本調査では中世初頭の博多における港周辺の都市の一様相をあきらかにした。

参考文献

- 大庭康時 2009『中世日本最大の貿易都市・博多遺跡群』（シリーズ「遺跡を学ぶ」061）新泉社
 大庭康時 2020「港湾都市 博多」大庭康時・佐伯弘次・坪根伸也編『島嶼と海の世界』（九州の中世 I）
 高志書院 pp.48-65
 大庭康時ほか編 2009『中世都市・博多を掘る』海鳥社
 下山正一 1989「福岡平野における縄文海進の規模と第四紀層」『九州大学理学部研究報告（地質学）』
 16（1） pp.37-58
 下山正一 1998「福岡平野の縄文海進と第四紀層」小林茂ほか編『福岡平野の古環境と遺跡立地－環境としての遺跡との共存のために』九州大学出版会 pp.11-44

表1 第1面検出遺構一覧

| 遺構 | 番号 | 埋土 | 出土遺物 | 特記事項 |
|-----|------|-------------------------------------|---|-------------|
| SP | 1001 | 灰色粘土。灰粒・黃白色粘土粒を少量含む。 | 土師焼鉢（赤）、土窯陶器。 | |
| SK | 1002 | | 土師焼片、白磁片、淡墨焼片、鹿児島系青磁片、平瓦。 | |
| MFJ | 1003 | | | クリーム色粘土を認む。 |
| SP | 1004 | 上層は灰色粘土、中層は白色粘土（灰粒少々）、下層は褐色粘土（灰粒多）。 | 燒した瓦、竹叶碗。 | |
| SP | 1005 | | 土師焼。 | |
| SK | 1006 | | 白磁焼片、燒造系焼片、高麗陶器片。 | 瓦を用いた方形还原。 |
| SE | 1007 | | | 瓦井戸、焼化。 |
| SK | 1008 | 上層は灰色粘土、中層は灰分、下層は滑片を多く含む灰色粘土。 | 白磁片、鹿児島系青磁片、土師焼片、瓦（赤）。 | |
| SP | 1009 | 灰色粘土、土師焼を少量含む。 | 燒した瓦。 | |
| SE | 1010 | 灰色粘土。鹿児島系青磁（茶色砂など、部分部分で変わる）。 | 土師焼片、燒明礬、燒した平瓦、丸瓦、燒鉢、土師、鹿児島系青磁、染付、キセモノ。 | |
| SP | 1011 | 灰色粘土、跡付瓦端。 | 土師焼片（赤）、鹿児島系青磁。 | |
| SK | 1012 | | | |
| MFJ | 1013 | | | |
| SP | 1014 | 褐色色粘土。黃灰色粘土粒を少量含む。 | 土師焼。 | |
| SE | 1015 | 褐色色粘土。 | 燒造系焼片。 | |
| SP | 1016 | 灰色粘土。褐色色粘土粒を少量含む。 | 土師焼。 | |
| SP | 1017 | 灰色粘土。滑片多少含む。 | 土師焼、白磁片。 | |
| SP | 1018 | | 瓦、白磁片。 | |
| SP | 1019 | クリーム色粘土。 | 白磁、青磁、土師焼片。 | |
| SK | 1020 | 灰色粘土。鹿児島系青磁（灰粒少々）。 | | |
| SP | 1021 | 灰色粘土、灰黄色粘土粒を少量含む。 | 丸瓦。 | |
| SP | 1022 | | 白磁片、土師焼片。 | |
| SP | 1023 | | 燒造陶器片。 | 板石あり。 |
| SP | 1024 | | 丸瓦、平瓦。 | |
| SK | 1025 | 中央部分は明灰色粘土、外側は褐色粘土。 | 鹿児島系青磁片、土師焼片、瓦（赤）、燒した平瓦、平瓦。瓦井戸粘土塊。 | |
| SK | 1026 | 褐色色粘土。 | | |
| SP | 1027 | 鹿児島系青磁（主）。 | 平瓦。 | |
| SK | 1028 | 褐色色粘土、灰白色粘土。 | | |
| SK | 1029 | 褐色色粘土、底がレンズ状に堆積。鹿児島系青磁（主）。 | 燒造陶器片。 | |
| SK | 1030 | 鹿児島系青磁（しまる）、土師焼、灰粒を少量含む。 | 平瓦。 | |
| SK | 1031 | | 白磁片、染付片、平瓦。 | |
| SK | 1032 | | 鹿児島系青磁、丸瓦。 | |
| SP | 1033 | 褐色粘土。 | 瓦。 | 板石あり。 |
| SP | 1034 | 灰白色粘土。 | 瓦。 | |

表2 第2面検出構造一覧

| 地種 | 番号 | 種子 | 出土物 | 出土地図 |
|-----|------|------------------------------|---|------------|
| SP | 2001 | 灰褐色。 | 土試験、須磨港、 高麗陶器片。 | |
| SP | 2002 | 白色粘土。 | | |
| SP | 2003 | 褐色粘土。 | | |
| SP | 2004 | 黒褐色。 | 土試験、白浜町。 | |
| SD | 2005 | 褐色粘土。 | 土試験。(ヘラ)、白浜、須磨港(須磨港)。 | |
| SK | 2006 | 灰褐色粘土。白色粘土粘多少黄色。 | 白色、青磁、土試験片。 | |
| SP | 2007 | 灰褐色粘土。白色粘土粘多少黄色。 | 土試験片、土試験。 | |
| MTJ | 2008 | 褐色粘土。 | 須磨粘土陶器、須磨瓦皿(須磨)→七頭、土試験片。(ヘラ)、須付。 | |
| SP | 2009 | 褐色粘土。 | 白磁瓶、土試験片、瓦。 | |
| SP | 2010 | 褐色粘土。 | 白磁瓶、土試験片、瓦。 | |
| SP | 2011 | 褐色粘土。 | 白磁片。 | |
| SP | 2012 | 褐色粘土。白色粘土粘多少黄色。 | 土試験、高麗陶器。 | |
| SK | 2013 | 褐色粘土。 | 土試験片、土試験。 | |
| SP | 2014 | 褐色粘土。 | | |
| SP | 2015 | 褐反色。 | 白磁瓶、土試験片、瓦(ヘラ)。 | 11C後。 |
| SD | 2016 | 褐反色。 | 白磁瓶、須磨港、須磨陶器。 | |
| SK | 2017 | 褐反色。 | 白磁瓶、須磨港、須磨陶器。 | |
| SP | 2018 | 褐反色。 | 土試験。 | |
| SP | 2019 | 褐反色。 | 須磨港、須磨港。 | |
| SD | 2020 | 褐色粘土。 | 須磨港、須磨港。 | |
| SK | 2021 | 褐色粘土。白色粘土粘多少黄色。 | 白磁、瓦片、須磨港、土試験片。 | |
| SK | 2022 | 灰色粘土。 | 土試験片、白磁片。 | |
| SK | 2023 | 灰色粘土。下層山陰青色(しまる)。 | 白磁、須磨港土試験片、瓦。 | |
| SP | 2024 | 灰色粘土。須磨港土試験片。 | 白磁瓶、土試験片。(ヘラ)。 | |
| SP | 2025 | 褐色粘土。 | 須磨港、須磨港(須磨)→七頭。 | |
| SP | 2026 | 褐反色。 | 土試験。(ヘラ)、須磨、土試験片。 | |
| SK | 2027 | 褐青反色。 | 須磨港、白磁片。 | |
| 一頭下 | 2028 | 褐色粘土。 | | |
| SK | 2029 | 褐反色。 | 土試験片。(ヘラ)、土試験片、須磨土粘、白磁。 | |
| SP | 2030 | 褐反色。須磨港土試験片に山形和正印に蓋じる。 | 土試験片、須磨。 | |
| SP | 2031 | 褐系色。 | 土試験。 | |
| SP | 2032 | 褐色。 | 須磨港、須磨土粘。 | |
| SP | 2033 | 褐色粘土。 | 土試験。 | |
| SD | 2034 | 褐色粘土。 | 須磨港陶器、白磁、青白磁片。 | |
| SD | 2035 | 褐色粘土。下層山陰青色(しまる)。 | 須磨港(ヘラ)、土切片(ヘラ)、白磁瓶、須磨土粘、土試験土粘、瓦片土粘。 | |
| SD | 2036 | 褐色粘土。須磨港土試験片。 | 須磨港(須磨)→七頭。 | |
| SK | 2037 | 褐色粘土。 | 土試験、白磁、土試験片(瓦)片。 | |
| SP | 2038 | 褐色粘土。 | 土試験、白磁片。 | |
| 一頭下 | 2039 | 褐色。 | | |
| SE | 2040 | 褐反色。白色粘土が斑状に混じる。 | 白磁瓶(V-1a種)、須磨瓶、白磁瓦、土試験片、土(ヘラ)。 | 11C後～12C前。 |
| SP | 2041 | 褐色。 | | |
| SD | 2042 | 褐色粘土。 | 土試験片、白磁、土試験片。 | |
| SD | 2043 | 褐色粘土。 | 土試験。 | |
| 一頭下 | 2044 | 褐色。 | | |
| 一頭下 | 2045 | 褐色。 | | |
| SE | 2046 | 褐色。 | 滑石瓶、土試験片(瓦)、白磁瓶(X-1b)、VI-1a種。 | |
| SP | 2047 | 褐色。 | 須磨港(瓦)。 | |
| SK | 2048 | 褐色。 | 須磨港、白磁、土試験片。 | |
| SK | 2049 | 褐色。 | 土試験、須磨片。 | |
| SK | 2050 | 褐系色。 | 土試験瓦。 | |
| SK | 2051 | 褐色。 | 白磁、須磨港土青磁片、土試験片(瓦)、瓦片土粘、瓦片。 | |
| SK | 2052 | 褐色。 | | |
| SK | 2053 | 黑色粘土。 | 土試験物、須磨瓦。 | |
| SP | 2054 | 褐色。 | | |
| SP | 2055 | 褐色。 | 土試験。 | |
| SP | 2056 | 褐色。 | 土試験、須磨。 | |
| SK | 2057 | 褐色粘土。須磨港各部分に含む。 | 須磨港(須磨)→七頭。 | |
| SK | 2058 | 褐色粘土。土試験片(瓦)。 | 土試験、須磨瓦。 | |
| SP | 2059 | 褐青色。 | 須磨港(須磨)。 | |
| SP | 2060 | 褐反色。 | 土試験。 | |
| SK | 2061 | 褐色粘土。反白色粘土粘多少黄色。 | 土試験、須磨港本有磁片、土試験片(瓦)。 | |
| SD | 2062 | 褐色粘土。 | 土試験片、土試験、須磨港本有磁片、土試験片(瓦)。 | |
| SK | 2063 | 褐色粘土。 | 須磨港(須磨)、土試験、瓦。 | |
| SK | 2064 | 褐色粘土。 | 白磁瓶(瓦)、土試験片(瓦)、瓦片。 | |
| SK | 2065 | 褐系色。 | 土試験片。 | |
| SP | 2066 | 褐系色。下層は段分(瓦)。 | 土試験、須磨瓦。 | |
| SP | 2067 | 褐色。 | 土試験片。 | |
| 一頭下 | 2068 | 褐色。 | | |
| IPF | 2069 | 褐色。 | | |
| SP | 2070 | 褐色。 | 須磨港陶器。 | |
| SP | 2071 | 褐反色。 | 白磁片(須磨)、土試験片、白磁片(瓦)。 | 振りすぎか。 |
| SD | 2072 | 褐色。 | 白磁片。 | |
| SP | 2073 | 褐色。 | 須磨港(須磨)、土試験片、白磁片。 | |
| SP | 2074 | 褐色。 | 白磁瓶、瓦片、瓦器物、土試験片、土(ヘラ)、須磨瓦上。 | |
| SP | 2075 | 褐色。 | 白磁、土試験。 | |
| SP | 2076 | 褐反色。 | 土試験片。 | |
| SK | 2077 | 褐反色。 | 土試験片(瓦)。 | |
| SK | 2078 | 褐反色。 | 土試験、須磨瓦。 | |
| SK | 2079 | 褐反色。 | 土試験、白磁片、須磨瓦片。 | |
| SE | 2080 | 北方系褐色。芦芦井山は褐色赤粘土を多く含む福岡系赤粘土。 | 二呂五頭物、瓦片、瓦片(須磨)、土試験片、土試験片、白磁瓶、白磁片、青磁瓶瓦。 | |
| SK | 2081 | 黑色。 | 須磨港水注、白磁片、無鉛須磨港水注器、白磁瓶瓦三、白磁瓶V-4c種、土試験片。 | 11C後～12C前。 |
| SP | 2082 | 褐系色。 | 土試験。 | |
| SE | 2083 | 褐色。 | | |
| SP | 2084 | 褐色。 | 土試験、白磁片。 | |
| SP | 2085 | 褐色。 | | |
| SP | 2086 | 褐色。 | 土試験。 | |
| SP | 2087 | 褐色。 | 式古志土器片。白磁、綠石、瓦、土試験、須磨港(須磨)。 | |
| SP | 2088 | 褐色。 | 白磁、瓦片瓶、須磨港水(漏斗)、須磨瓦(漏斗)。 | |
| SD | 2089 | 褐色粘土。 | 土試験片(瓦)、青小瓶、瓦器物、白磁片(須磨)X-4種、土試験片。 | |
| SD | 2090 | 褐色粘土。 | 土試験片(須磨)、須磨瓦。 | |
| SD | 2091 | 褐系色。 | 土試験片(須磨)、瓦片、瓦片(須磨)。 | |
| SP | 2092 | 褐色。 | 土試験片(ヘラ)、須磨瓦、瓦。 | |
| SP | 2093 | 褐色。 | 須磨瓦(須磨)、土試験。 | |
| SP | 2094 | 褐系色。 | | 振りあり。 |
| SK | 2100 | 褐色。 | 土試験。 | |
| SP | 2101 | 褐色。 | 白磁瓶、土試験、瓦片。 | |
| SP | 2102 | 褐色。 | 白磁、白磁、須磨港水片。 | |
| SP | 2103 | 褐色。 | | |
| SK | 2104 | 褐色。 | | |
| SE | 2105 | 褐色。 | 土試験片(瓦)、初期須磨系青磁片、須磨系青磁片II-7頭、須磨系福岡、白磁片、須磨瓦。 | |
| SE | 2106 | 褐色。 | | |
| SE | 2107 | 褐色。 | | |
| SE | 2108 | 褐色。 | | |
| SE | 2109 | 褐色。 | 須磨港水片、白磁瓶、須磨瓦器物、越州系青磁片II-1b種、越州系青磁片。 | 11C後～12C前。 |
| SE | 2110 | 褐色。 | | |

付編 博多遺跡群第242次調査出土ガラス資料の保存科学的調査

比佐陽一郎

博多遺跡群第242次調査で出土したガラス資料について、材質分析を中心とした保存科学的調査を行い、先行研究に基づくガラスの位置づけを試みる。

近代以前の出土ガラスは、石英を主成分として、融剤や着色剤を添加して作られるが、ガラス製造に用いられた材料を肉眼観察のみで知ることは難しく、理化学機器による分析が必要となる。文化財調査に理化学機器が広く用いられるようになって以後、出土ガラスも調査研究の対象とされ、特に融剤や着色剤が地域や時代の特徴を示すことや、更に資料の形状や製作技法の情報を組み合わせることで、世界的なガラスの変遷や流通が明らかにされている。出土ガラスの材質的な分類は、肥塙隆保氏らの成果に準拠する(肥塙 2001、肥塙ほか 2010)。

資料は不定形のガラス塊1点で、淡青色の色調で透明感は極めて乏しい。不明遺構(SX1025)の出土で共伴遺物の時期は近世を中心とする。調査はガラスの材質、組成を非破壊的手法により明らかにすることを目的として、蛍光X線分析とX線回折分析を行った^{註1)}。

本来であれば蛍光X線の分析結果は定量値で示す方が理解しやすいが、本調査は非破壊による表面分析で行っているため埋蔵環境下での組成の変化なども想定される。また標準化のための標準資料を持たないこともあり、結果は定性的な表記にて行う。

検出された元素は、ピークの高い順に珪素(Si)、カリウム(K)、カルシウム(Ca)、銅(Cu)、鉄(Fe)、アルミニウム(Al)が認められる。他に微弱なピークとしてナトリウム(Na)、マグネシウム(Mg)、マンガン(Mn)、鉛(Pb)も検出されている。

また、X線回折分析では、明瞭なフッ化カルシウム(Fluorite: CaF₂)のピークが認められ、不透明の質感が萤石による乳濁である可能性が示された。

以上の結果から、本資料の基礎ガラスは、出土遺構の時期も合わせ、カリ石灰ガラスと考えるのが妥当と思われる。淡青色の色調は銅によるものと見られる。これまでの経験上、カリ石灰ガラスの場合、カリウムがカルシウムのピークを大きく上回るが、今回の事例では両者のピーク高は拮抗している点でやや違和感がある。これは萤石の成分が影響しているものと考えておきたい。

博多遺跡群ではこれまでに淡青色の不透明、あるいは半透明の、いわゆる乳濁ガラスが多数(100点以上)出土しており、その中には不定形塊も含まれる。X線回折分析を行った資料では、いずれからも萤石成分が検出されている。基礎ガラスはカリウム鉛ガラスか、カリ石灰ガラスで(比佐・林 2021)、割合としてはカリウム鉛ガラスの方が圧倒的に多い。各資料の時期は明確にし得ないものが多いが、概ね14世紀以降が中心になると考えられ、カリウム鉛ガラスが先行し、カリ石灰ガラスは16世紀以降となる可能性がある。カリウム鉛ガラスの方が不透明の度合いが強く、プラスチックのような質感を呈する。今回の資料では認められなかったが、一部の資料では着色要因の銅とともに亜鉛が検出されるものもある。これは着色に単なる銅ではなく真鍮が用いられた可能性が考えられる。亜鉛が検出される資料はカリ石灰ガラスが多く、この種のガラスが時期的に後出することとも符合する。

博多遺跡群では本資料の他にもカリウム鉛ガラスも含め10数点、同様の不定形塊が認められる。しかし、この種のガラス加工に関わる坩堝などは今のところ見つかっておらず、不定形塊をすぐに製作痕跡と結び付けることは難しいのかもしれない。とはいって、火災など偶然の被熱で生じたとするには事例数が多く

く、博多における中世後期から近世のガラス加工の可能性も視野に入れながら、類例や新たな発見を期待したい。

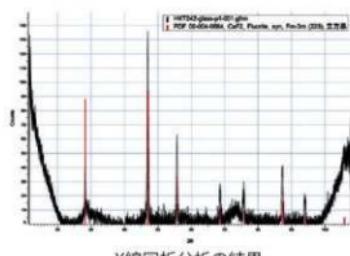
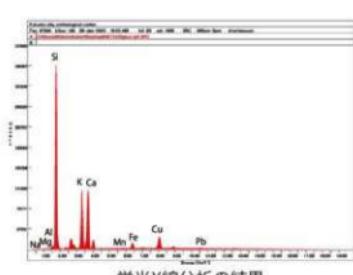
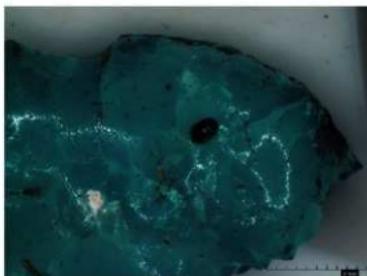
註)

分析に用いた各装置の仕様と分析条件は次のとおり。

- ・エネルギー分散型微少部用蛍光X線分析装置(AMETEK・EDAX Orbis)：対陰極：ロジウム(Rh)／検出器：シリコンドリフト検出器／印加電圧：20kV／電流値：1000 μ A／測定雰囲気：真空／測定範囲 0.3mm ϕ ／測定時間 180 秒
- ・X線回折分析装置(Bruker-AXS・D8-DISCOVER)：対陰極：銅(Cu)／検出器：リアルタイム二次元検出器／印加電圧：40kV／電流値：40 μ A／測定角度 13 ~ 107°／測定範囲 0.5mm ϕ ／測定時間 900 秒

参考文献)

- 肥塚隆保 2001「古代ガラスの材質と鉛同位体比」『国立歴史民俗博物館研究報告』第 86 集 国立歴史民俗博物館
肥塚隆保・田村朋美・大賀克彦 2010「材質とその歴史的変遷」『月刊文化財』11 / 平成 22 年 (566 号) 第一法規株式会社
比佐陽一郎・林佳美 2021「中世の乳濁ガラスに用いられる材料について」『日本文化財科学会第 38 回大会研究発表要旨集』
日本文化財科学会



写真図版



Ph. 1 第1面全景（西から）



Ph. 2 Ⅱ区第2面上層全景（北から）



Ph. 3 I区第2面全景（東から）



Ph. 4 II区第2面全景（北から）



Ph. 5 I 区第2面全景（北東から）



Ph. 6 II 区第2面全景（北東から）



Ph. 7 SE1010 完掘（北東から）



Ph. 8 SE2040 完掘（南東から）



Ph. 9 SE2057 完掘（北西から）



Ph.10 SE2080 完掘（南西から）



Ph.11 SE2110 完掘（南西から）



Ph.12 SK2100 完掘（北東から）



Ph.13 SX2050 出土状況（北西から）



Ph.14 SX2095 出土状況（東から）



Ph.15 38 (SE2105)



Ph.16 39 (SE2105)



Ph.17 51 (SE2110)



Ph.18 83 (SK2081)



Ph.19 94 (SK2087)



Ph.21 110 (SK2052)



Ph.20 102 (SK2090)



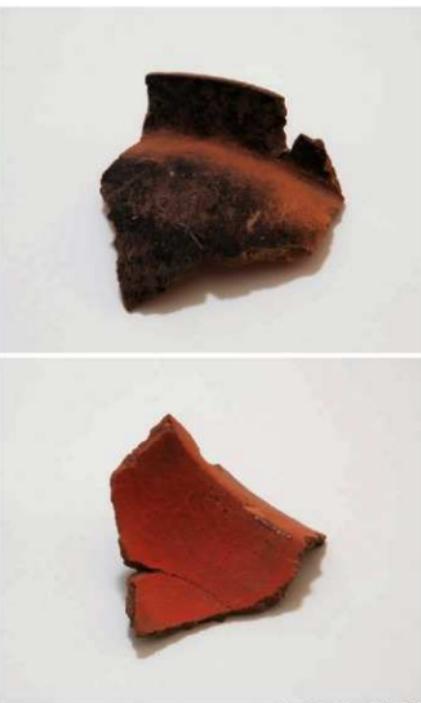
Ph.22 116 (第2面へ掘下げ)



Ph.23 黒書陶磁器



Ph.22 121 (一段下げ 2044)



Ph.25 22 (SE2057)

Ph.24 26 (SE2080)



Ph.26 104 (SX2050)



Ph.26 105 (SX2095)

報 告 書 抄 錄

博多 188

— 博多遺跡群第 242 次調査報告 —
福岡市埋蔵文化財調査報告書 第 1455 集

2022年 3月24日

発 行 福岡市教育委員会
福岡市中央区天神 1 丁目 8-1
印 刷 國崎美峰堂
福岡市東区箱崎 1 丁目 20 番 20 号

